

中齋塾 東京フォーラム講話
平成 25 年度 第 9 回

平成 25 年 10 月 12 日
於 湯島聖堂

おはようございます。暑かったり寒かったりと何とも面妖な天気でございます。面妖という言葉は、安岡正篤先生が「この時代、面妖な時代」と言われて、御子息の安岡理事長がよく「昨今は面妖な時代である」という言い方をしています。面妖の「妖」は妖怪変化の「妖」ですから、そういう輩が跋扈している、気候も同じくという感じがいたします。

先ほど、事務所から走って湯島聖堂まで 7 分です。ギリギリでしたが、あまりやるものではないですね。10 年ぐらい前に高崎駅で新幹線乗るのに走って飛び乗って、やれ間に合ったと思ったら、反対方向でした。他にも全力疾走で飛び乗ったら、東京駅まで動悸が治まらなかったの、それ以来全力疾走は止めることにしました。ほどほどに走るようになっています。

朝起きた時には、若人、昼は中高年、夜は老人という風に自分の体を考えておりますが、まだ今はギリギリ若人の時間帯です。ただ、その日の疲れ具合によって夜は介護老人に変わりますので自分の身体をコントロールしています。意識して言い聞かせていると、自然と変わるような気がします。

この間、明治神宮の奉納吟詠を致しましたが、好評でした。ぶっつけ本番のような感じでしたが、よくできたなと思います。私、自信を持ちまして、来年は従来のはある長い吟をやります。それだけレベルが上がったのだと周囲の方々が認めだしています。

我々が学んでおります中齋塾フォーラムでも、知らず知らずの間にレベルは上がっております。急に色々聞かれても、良い言葉・生きる上での良い言葉がポンポンと出てきます。

今月は出雲大社、伊勢神宮で合同吟詠をして参りますが、この間、連絡を頂きまして「能楽堂で独吟をして頂きます」と言われました。即座に「学を論ず」と、返事を致しました。急に何かをふられてもスッと明快な返事ができるのは、それなりの練習を重ねているからであると感じます。

最近、雑草を抜きながら感じたのですが、樹木の根っこと草木の根っこは似ています。下にまっすぐ伸びている雑草は、素直でまっすぐ伸びています。雨が降った後はスッと引っ張ると簡単に抜けます。まっすぐの雑草の場合は抜きやすい。草の名前が分からずエイリアンと呼んでいる雑草があります。その雑草は、四方八方に伸びてあちらこちらに勢力

を拡大していて、上から見下ろすとエイリアンというイメージなのですが、まっすぐ素直に伸びない。横へ横へと広がって、着地をするとそこを拠点にして広がっていく。戦国時代の武将が領土を拡張する様に似ているなど感じます。攻められた人達はエイリアンが来たという感じを受けるのだらうと思います。

以前、コスタリカや屋久島に参りまして「この木は大きいですね、屋久杉ですか」と聞きましたら「いいえ、小さい杉です。小杉です」と、1千年未満の杉は小杉でして、1千年を過ぎると屋久杉と名前が与えられる。縄文杉や紀元杉など色々あり、私は紀元杉に触りました。見ましたら根っこが板根（バンコン）でした。アンコールワットの寺院の中に板根がありましたが、それは非常に広がり方が凄くて、大きい板のような根っこが横に広がり、寺院そのものを覆い尽くしてしまうような凄まじい広がりかたでした。樹木で大木になったものは深く、横にも広く、1千年以上のことはあると思うような根っこの張り方です。これがコスタリカですと、巨木も100年位しか持ちません。大きなハリケーンが来ると簡単に倒れてしまうそうです。

人間は素材によって、根っこの張り方が変わるのだらうなどと思います。男性女性の根っこの張り方、それからその人間の目指すところによって根の張り方が変わるということをつくづく感じました。

このお話は、だいたいお分かりのように、縦の学問、横の学問に繋がります。縦の学問を一生懸命される方は、少し横の学問もされた方が良いでしょう。横の学問をされる方は縦の学問もされると良いでしょう。尚且つ、目に見えるものと、目に見えないものの違いはどこにあるか。人品骨柄卑しからずと思われる方は、根っこが深い。そう思ってまず間違いはないでしょう。

恒例の質問

- ・昨日一日嘘をつかなかった人

嘘をつかないで毎日を過ごしていると、けっこう気持ちよく朝起きられます。でも、だんだん人生体験を積むと、簡単に嘘をつくつかないか言える訳がないではないかと思う。嘘も良い嘘と悪い嘘がある。当然そういうことを考えられる。人様のためになる嘘であれば、良いのではないかという事で手を挙げられるとよいでしょう。嘘について最近はそのように思っています。でも心にもない嘘をつくると後始末が大変ですから、あまりリップサービスはしない方が良いでしょう。

- ・昨日一日のなかで、有難うと言い、有難うと言われ方が2回以上の方

私は昨日、たまたま「有難う」と立て続けに言われたので、そういう言い方をしました。「有難う」と言われるのは、歳を重ねるとなかなか言われなくなります。

・昨日一日、何かの健康法を実践された方

この間、人体実験をしたと申しあげましたけれど、やっぱりちゃんとしたお医者さんでないといけない。かかりつけのお医者さんは何十年とお付き合いをしていますけれど、今年に入って軽い認知症になったのです。どんどん中身が変わってくる。三ヶ月間たんぱく質を減らすものを、その先生は「摂取量を35グラムにしてください」と言われて実践していました。から揚げが1個35グラムぐらいです。一日それぐらいです。一ヶ月実践したら足の筋肉がえぐりとられました。これは危ないなと感じたので約1ヵ月半で止めました。1ヶ月では筋肉は戻りません。筋トレは良いですが、たんぱく質や炭水化物はきちんと取った方がよいです。他のお医者さんにこの話をしたら「それは無茶だ。35グラムというのは含有量だから、全体ではなくて中に入っている量を取ってよい」ということなので、「なんだ5~6倍食べてよかったのか」と今頃になって感じました。

今までの付き合いで、相手の言うことは本当か嘘か見抜けるだろうと思っていましたが、日頃お付き合いをしているお医者さんもボケてくる。日頃お付き合いをしている友達もボケてくる。自分自身もボケてくる。木内信胤先生は「気が違うことが怖い」と晩年言われておられましたが、それは認知症になるのが怖いということです。ちなみに安岡正篤先生は認知症になりました。なった結果、いろいろ問題が起きました。自分が危ないな、危なくなってきたら周りの友人で認知症になりそうにもない人に、私がおかしくなってきたら教えて貰うという人間を2~3人作っておくと良いだろうと思います。人間75歳を過ぎると危険性が増すようでございます。お氣をつけください。

素読論語解説

自分の知らない科白が出てきたら調べて見る。分からなかったら知っていそうな人に聞く。知らない時に知らないと言えると、かなり根っこが深くなっています。知ったかぶりをするようでしたら、まだ根っこは浅いということです。

【八】棘子成曰く、君子は質のみ。何ぞ文を以て為さんと。子貢曰く、惜しいかな、夫子の君子を説くや。駟も舌に及ばず。文は猶 質のごときなり。質は猶 文のごときなり。虎豹の鞞は、猶 犬羊の鞞のごとしと。

この時、棘子成は55歳。棘子成が「君子たるものは、質が大事です。中身を重視しましょう。外側の飾りは気にするものではない」と言った。この時の子貢は、皮肉を言っているから唇が斜めになっていると、そう思ってください。どんな皮肉かと言えば「あなたが君子について話しているのは、四頭立ての馬車が追いかけても口から出た言葉というのは、取り返すことが出来ないし、間に合わない。飾りは本質と同じぐらい重要で必要です。本

質も飾りと同じく重要です。何故なら、虎や豹の毛を取って、なめし皮にしたのなら、犬の皮なのか羊なのか、なめしたら見たって分からない」

中国に行ってお肉を美味しいなと思って食べていたのですが、ふとこれは犬の肉、豚の肉、牛の肉？何となく肉の味は違うのだが、種類が分からない。猪の肉、熊の肉、鹿の肉、味付けを同じにするとあまり変わらない感じがします。硬いですよ。

過ぎたるは及ばざるが如しですから、言い過ぎないで努力をした方が後々大きな問題にはならないと思います。アベノミクスの安倍首相も発言をかなり慎重にしていると感じます。消費税を8%にしても、これは倒れないで続いていくなと感じています。

【九】あいこう 哀公 ゆうじやく 有若に問いて曰く、としう 年饑えて用足らず。之を如何にせんと。ゆうじやくこた 有若対えて曰く、なん 盍ぞ徹せざると。曰く、に 二すら吾 われ 猶足らず。之を如何ぞ、そ 其れ徹せんやと。対えて曰く、ひやくせい 百姓足らば、きみ 君 たれ 孰と与にか足らざらん。百姓足らずんば、きみ 君 たれ 孰と与にか足らんと。

増税の話ですから、今の時代にピッタリと合う話です。

哀公が有若に「今年は飢饉で国家の費用が足りない。どうしたらよいか」と聞いた。現代に置きかえると「1千兆の借金を日本国が背負っている。どうしたらよかろうか」嘘をつけですよ、1千兆円であるわけがない。普通、潰れた会社の借金は倍額あると言いますから、隠れ借金あと1千兆円はあるだろうと考えると、これはどうしたらよかろうかと、有若に相談をした。有若が答えたのは「何で税金を十分の一にしないのですか。税金は1割でよいのです」その時代は2割の税金を取っていました。「2割の税金を徴収しても足りないので相談しているのに、1割にしろというのは、冗談を言うものではない」ここら辺が皮肉ですが「重税を国民に課して国民が貧しくなったら、君主は誰と富むことが楽しめますか。国民が富裕になれば、君主が一人だけ貧しくなることはない」言い方を変えれば、国民が貧しい時に何故、君主だけがたくさんお金を取ろうとするのか。国民が富裕になれば、最後は君主に富がゆくものだ。それでよいではないか。

税金のゆくえ

ここら辺を読むと、日本の国の税金が高いと思う方、安いと思う方。どこら辺を対象にしているか、富裕層か、自分の懐でか、自分自身のことを考えて、日本の国の富裕層の税金は、高いか安い。

(会員) ー安い。

安いのは安いで良いのです。ただ、今度はいつ上がるのかな。2013年から、給料を貰っている富裕層の最高税率は40%、住民税は10%でした。今度は給与所得が45%になります。住民税は10%、後は55%。課税所得55%の税率になるし、これは富裕層4千万円以上の人。復興税なるものが0.01%25年間掛かり続けます。目に見えないところで税金は掛かる。1500万円以上の年収がある人は2013年から、給与所得控除が245万円で打ち切られる。「もう

関係ないよ、富裕層はたくさん税金を取られてもしょうがない」と思うのは、それはそれで良いでしょう。だけれども富裕層からも税金を取るのだから、一般の人も当然増税にします。例えば相続税です。これは従来の 5 割増しぐらいかな。相続税を取られなくなかったら、おじいさんおばあさんは孫や子供たちに財産を分けなさい。その代わり税金を安くします。何だろう、税金を考える人達は、バナナの叩き売りをバンバンやって「今のうちに子供や孫に金を渡しておけば、税金が安くなるよ、これからはただ税金を取られるだけだ」と。税金を上げる話ばかりしていて、それも小出しにしながらやっているから、バーンと打ち出して反発が強いと、それをスッと下げて税率を低くする。

5 年 10 年ぐらい経ってハッと気がつくのと、税金が凄まじく高くなる。国外に出る富裕層の日本人は、かなり増えるのではと思います。でも敵もさるもので、国外にお金を送金した人は本人にいちいち教えなくて、銀行が税務署に「ご注進、ご注進」として出していますね。ご注進と出さないと、たぶん銀行は叩かれるものだから「誰それさんは、海外にこれだけお金を出しています。だからお金を隠蔽しています」という言い方になります。

テレビで経団連が消費税のことに「政府は良いことを言う」と言いますでしょう、あれは失礼だなと思います。何故、経団連が「消費税は素晴らしい、もっとドンドンやってくれ」と言うのか。ある人が調べて、大企業でドンドン輸出をしている上位 10 社が消費税で戻ってくるのが 1 兆円です。この間、参与とこの話をしましたら「大企業はいいですね、うちは青色吐息です」と言っていました。参与の会社は、輸出をしているから良いと思いついたのですが「消費税分はカットして輸出していますから戻ってこないのです」と。経団連が「消費税はよい」と言うのには「儲かる」とは言わないで、ただニコニコしながら衣の下が見えているという感じがします。だから大企業優遇というのがドンドン裏で進んでいる。テレビに出てきてニコニコして時流に乗って政府におもねるような発言をしている人はちょっと調べて見ると、一人だけ懐が潤うような動き方をしているという感じがします。

アベノミクスは成功するようにみえるでしょうから、東京オリンピックの 7 年後までと話が出たでしょう。7 年後までの間に税金 8%は良いけれど、10%がダメだったら、色々手を換え品を換え、それに見合うだけの税金をドンドン取りにいくと進めるでしょう。

これから広がるのは、金庫屋さんが地中に埋める金庫をたぶん開発するのだろうと思います。私はこれから 10 年間ぐらいで金庫屋さんの宣伝が変わるだろうと思います。

小さい金庫でも目で開けたり、指紋でカチッと開けたりとドンドン変わってくる。高齢者になると、なかなか暗証番号を覚えられません。私も分からないものですから、紙に書いてありますが、見てみますとポストの暗証番号、パソコンの暗証番号、携帯の暗証番号と何故だか分かりませんが暗証番号だらけです。そんなものいちいち覚えられないわけがない。銀行も毎月変えてくれという。いずれにしても日本の国は、高齢者が住みづらい世の中になってくる。高齢者も、もうちょっと声を上げて、住みやすい国に変えなければならないという感じがします。政治家もゴロツと総入れ替えをして貰わないといけないと思う。

<時事評論>

代表幹事が先ほど「日本人が素晴らしい」と言われた。それは、何かと思った時に新聞記事を思い出しました。

昨日の朝日新聞で、平均年齢 36 歳の独身女性を対象としてセミナーをした。卵子の老化は体外受精では救えません。そうすると大変ですな。前回申しあげました精子 2 億個。最近草食男子が増えているから 2 億はいない。1 億 5~6 千万個の精子。尚且つ、少子高齢化で女性の高齢出産が増えている。赤ん坊が生まれる確率は減っている。男女の比率は変わってくるのかなという気がいたしました。そういうところから考えて、人間だけ一夫一婦制が当たり前だと思われているけれど、もしかすると数十年経ったら一夫多妻制か一妻多夫制か、日本は当たり前になってくる可能性がある。何故ならば、精子と卵子の強弱、数。それと富める者がドンドン巨大化して中間層がガクとなくなって貧困層が増える。ちなみに中間層といわれるものは、今政府が色々な発表の仕方をしていますが、200 万円以下の低所得層という言い方をしたり、270 万円以下の低所得層と言ったり、150 万円以下の低所得層と言ったり、少なくとも私がマスコミを見ている中で、150 万円以下と 200 万円以下と 270 万円以下を低所得層と定義づけしているところが散見されます。上は 500 万円以上の高所得、750 万円以上の高所得、1500 万円以上の高所得と言うのです。

税金を掛ける上で、課税所得 4 千万円以上を高所得と税務署はやっていますよね。何でそんなに違うのか。厚生労働省や文科省、みなそれぞれ関係している省庁で富裕層と中間層と低所得者層と金額を変えているのです。これはどこかでアドバルーンを上げさせて、だいたいここら辺だと国民の反発はないよねというところに落ち着けている感じがします。高所得者はほっといたってドンドン高所得者になるのだから、低所得者層というところにメスを入れて諦めてもらう。生活保護の方も同じく。生活保護の人と働いて稼いでいる人の最低ランクを比べて見ると、生活保護の人の方が、お金が多く入ってくるという時代になっていますでしょう。今、生活保護に入りたいという人は、簡単に入れなくなっています。仮に私が「生活保護に入りたい」と言う。あなたの兄弟は？両親は？子供は？と、全部でいくらの所得があるのかという申請を出して、調べて間違いなく誰も応援してくれないと判明するまで生活保護を受けられない時代になりました。どんどん世の中が今変わって来ています。変えて来ています。変えている人達はどこかにいるのだらうと感じます。

今日の論語の「徹(てつ)」の部分から感じました。税金の部分から色々と広がってきます。

紹介書籍

『ブータンで本当の幸せについて考えてみました。－「足るを知る」と経済成長は両立するのだろうか？』 本林靖久・高橋孝郎著 阪急コミュニケーションズ

私が数年前に行った時には、ブータンの本が少なかったのですが、今ではブータンは幸せの国ということで、ブータンについて紹介している本が増えています。

実際に行ってみてブータンの幸せに対する考え方で納得したのは、比較しないから幸せだということを感じました。食べ物も御馳走がたくさん並んでいる日本であれば、和食、中華、洋食と目移りするけれども、ブータンに行ったらそんなに何種類もない。日本から持って行って根付いたのが食べられる植物で蕨やぜんまい。美味しく頂きました。

あとブータンで感じたことは、昔は幸せ感いっぱい。老人を大切にし、結婚する時にも仏間が立派であれば、なかなか良い家柄の息子さんお嬢さんというようでしたが、今は考え方が薄くなってきている。何故か。外国の文化が入ってきているから、羨ましいという気持ちが起きる。羨ましいという気持ちが起きると、幸福感が少なくなる。今ブータンは、不幸せ感が増えてきていると感じます。でも年配の方と会ってお話をする分には、まだまだ幸せ感はたくさんあると思います。

ちなみに太田市の教員補助をやっているブータン人の方に会いました。話をお聞きしたら、「日本って変な国ですね」と言う。「何故ですか」と聞いたら「我が国では教員は素晴らしい聖職であると周りの人達から尊敬される職業なのですけれど、日本はどうなっているのでしょうか。教師はちっとも尊敬されていると感じません」という話をしてくれました。

幸せについて考える時にブータンという国に行ってみることは必要であろうと思いますが、書いてある本をそのまま鵜呑みにはできないと思いました。書いてある本も時間が経つと陳腐化します。心の中にある幸せというのは、身近にあるのだらうと思います。

「幸せと経済は両立するか」

これは考え方によっていくらでも両立すると思います。「足るを知る」で考えればよいでしょう。

何度も申し上げておりますが、我々は論語を学んでおります。論語を学んでいる時に、陽明学の学問手法によって学びましょうと申しております。その申し上げてある中での基本が「知足」です。ほどほどにしましょう、あまり貪らないようにしましょう。「足るを知る」という考え方を何回も申し上げて、それが自然と真髓になることを願っていますし、そういう方向に進んでいると思っています。その為の分かる素材として、ブータンに関するお話であるとか新聞記事などのお話です。

陽明学では、とにかく行動するというのに直結して考えればよいです。行動するというものがあるから、ブータンという話が出てきた時に、私はすぐブータンに出掛けたわけですし、やせ細っている西郷隆盛像があるという話を聞いてすぐ沖永良部島に行って像を見してきました。この西郷像を話したら、ある方に「当たり前です」と言われました。「何故、当たり前なのですか」と聞いたら「沖永良部島は私の故郷です」という人がいました。沖永良部島出身の人は西郷隆盛のあばら骨が浮いた像をずっと見て育ったのだから、それは

当たり前のことです。それも現地に行って見てこれだなと思えば、私の頭の中にも当たり前前として入る。行動すると身体で分かる。実感で分かるということです。

老人半日仕事

私は70歳代になったら、やっても良いと思ったのは、三浦雄一郎さんが書いた本の『老人半日仕事』あれは良いなと思いました。言い方を変えると一日一件用事を済ますことにしました。ただ色々な用事がありますから大事な用事は一日一件。後は雑用と思っています。私の頼んだ仕事は雑用かと思われると困るのですが、私の心の中で大事だと思うものは、丁寧に一生懸命に仕上げて一日一件。あとは良い加減に処理をします。

今回の四季便りの中に「その日のことはその日の内に」と入れました。今までの資料はドンドン処分中。考えて見たら、その日のことはその日の内にというのは、ほんのちょっと時間を使うだけで出来ますね。

情報を味わう

日本の国は格差社会が広がってきていると思っていましたら、今日の新聞の中で「格差社会が進んでいます」という記事がありました。「世帯の所得格差が過去最大に更新した」という内容不明の新聞記事が出ていました。ちょっと読みましょうか。

朝日新聞10月12日(土)の朝刊、「税制や社会保障の効果を除外して分析した。所帯間の格差が、2011年の調査で過去最大となったことがわかった。厚生労働省が11日、「所得再分配調査」を公表した。高齢化で所得の少ない世帯が増えた主な原因とみられる。厚生労働省は「社会保障や税による再分配が機能しており、実質的な格差はほぼ横ばい」と説明している。調査は3年ごとに全国で実施。0~1の間で1に近づく所得格差が大きくなる指標「ジニ係数」を調べた。今回は東日本大震災で被災した岩手、宮城、福島の3県は除いた。就労や財産などから得られた世帯ごとの所得では、11年調査のジニ係数は0.5536で、3年前の前回調査から0.0218ポイント上がった。格差の拡大は1984年ぐらいから続く。」

何が書いてあるのか、もう少し具体的に分かりやすく書きなさいと思う新聞記事です。学者も当たり前の話を分かりにくく言う学者はエセ学者。分かりにくい話を分かりやすく解説するのは本物の学者だと前に教わりました。新聞記者も同じですね。「分かりにくくアドバルーンをあげてよ」と、頼まれて書いているのでしょうか。だからよく気をつけて新聞を見ると「誰それが語ったという」、「誰それさんが発言した」と、色々な表現の仕方をしていますが、責任回避の文書ばかりです。署名記事が最近は増えていますが、署名記事があったとしても全体はぼかしている事が多いと感じます。

この間、私が関係している会社が鹿の捕獲記事で上毛新聞に掲載されました。確認してみると、全国でもそのようなことを考えている自治体はかなりあるようですので、これは広がっていくのかなと思います。折角捕ったのならば、鹿のレストランや缶詰などの事業も悪くは無いなという気がします。

上毛新聞は群馬県の新聞で一番多く販売されている新聞です。二番目は読売新聞、三番目は確か毎日新聞。その地元最大の新聞に鹿捕獲事業を群馬県が委託をする予定と掲載されたのを見た瞬間、カチンときたのです。

何故、カチンと来たか。「契約をした」のならニコニコしているのですが、「委託」とそこで止めてあるのです。鹿の被害が非常に多いので捕獲を委託。これから委託をするのだなということは、委託をしたいと思った会社がでたらば競争になる。少なくとも契約をしようと思う人は割りを食う、けしからん記事の書き方をしたと思ったのです。一番目は、身内の感覚でけしからんと思ったのです。二番目は、何の意図があってこんなことを書いたのか。アベノミクスに関して好景気を演出するような話題があれば載せろというのが政府から出ているんじゃないのと。記者クラブがありますから、記者クラブの人が書きたくなるような、そういう流れを政府が作って、その流れに乗かって、ちょっと面白い記事で景気をさらに良くするという風に判断した部分は載せようと。好景気だから載せるのではなく、好景気を演出するための記事が欲しいという風に私は見えた。だからカチンときました。それからもう一つ、群馬県がこういう記事を書かせたがったのかな。この間、群馬県と新潟県と埼玉県の三県の知事が集まって、各県連携して活性化をしようという話をしました。それを各県の同友会が下支えをして合同の委員会が会議をするということが行われています。埼玉県の知事が「埼玉は本田技研が出ていて、何故、寄居を選んだかと聞いたら、日本海と太平洋を高速が結んでいるからだということで、我々は日本海と太平洋を睨んだ経済圏を確立したい。でも埼玉県は、新潟や群馬はあだやおろそかにしませんから仲良くして欲しい」というような挨拶をしました。失礼な挨拶だなどは思ったのですが、ニコニコしながら言っていました。その中で群馬県は非常に影が薄かった。それもピリッと来たので、私が挨拶をする時に「新潟県には素晴らしい人物、河井継之助が出ています。河井継之助については昨年本に出しました。ここ埼玉県に関しては、渋澤栄一や安岡正篤先生が出ています。そのお二人の本も書きました。皆さん、御自分の出身の県で素晴らしい人物が出ているのは御存知ですか。知らなければ、私の書いた本を読んでください」という話をしましたら、不思議なことに名刺を持ってゾロゾロやってくるのです。その中で、著書本を贈ってきた公認会計士の人がいました。中を見ましたら、私が指導をした嵐山の近くで生まれた企業が大きくなっています。嵐山の近くで八百屋さんをしていたところがヤオコーというスーパーになり、呉服屋さんが、しまむらという衣料品店になりました。ラーメン屋がハイディ日高となり日高ラーメンを展開していますという感じの本なのですが、会うことにしました。そういう時、自分が気になった会社は自分の足で行くことにしています。それは陽明学ベースです。何か色々とアンテナを張っていてカチンときたもの、引っかかったものに関してはすかさず行く、動く。思った時に動いておかないとダメです。後で必ず忘れてしまうので、その日のことはその日の内に。カチと来た時、オヤッと思った時にすぐその場で電話をかけておくと、向こうから返事が返ってきますので、また手紙を書いて出しておく。自分が出掛けない場合には、周りに頼んでおけば何と

か進んでいく。その日のことはその日の内にとり思ってからは、さらに進めるようにしました。

出来得る限り新聞をご覧になると良いですね。新聞を見る、パソコンを見る、他のものも見る必要がある。オヤッと思ったら人と話す必要がある。やはりまだ新聞は必要だろうなと思います。ところが若い人に聞くと、新聞を読む人は圧倒的に少ない。時々ではなく、なるべく見る癖をつけると良いと思います。新聞を見て、線を引く、それが頭に入ると点になっていって、ある日、突然結びついて融合します。融合をすると、アニメ・映画の世界ですが、エイリアンが襲ってくると色々なバラバラの器機がシグナルを出す。そうすると金属片が巨大なロボットになるという話がありました。人間も同じです。実際に行ってみただけではなく触れて見ると、色々な点が、ある日突然悟りに繋がると私は信じています。出来得る限り情報は、食べて見る、味わってみる、そして処分すればよい。味わわないでダメとはやらない方が良い。あばたもえくぼもあるから、結婚もそうで、あばた・あばたとやっていると突然えくぼになります。

核の不使用に署名へ

私が気になった新聞記事で、核の不使用に署名。核兵器の使用を完全排除した場合はアメリカの核抑止力に頼る政策と合わない判断し、署名を見送ったけれども、被爆地などが強く反発したことから、政府は方針転換を模索して、核は使用しないと国連の共同声明に署名するという記事が10月11日付けの朝日新聞に載っています。

これを見た瞬間に思うのは、吉田茂さんの時には、核を使おう・つくろうと言った。佐藤栄作さんの時には、委員会を作って核爆弾をつくるという事を真剣に考えたけれどアメリカにストップをかけられて止めた経緯がある。もうそろそろ核について日本は真剣な論議が始まるんだなというのが、ここから見えてくる。ということは日本でも徴兵制というのが始まるというのが見えます。同時に、傭兵になっている日本人もいますから、戦争はドンドン広がるのが透けて見えてくるという感じがします。政府はもうちょっと他の国がどうなっているかを調べないといけないし、公にしないとけない。特に気にするのはスイス。あとは北朝鮮と中国とロシア、台湾、韓国。今日本を狙っている国々はどれぐらいの戦力をもっていてどういう風に日本を攻めようと考えているのか、それに対して日本はどのように受けようとしているのか。どういう法律を作ろうと模索しているのか、ちょっとは発表しなさいという風に思っています。それがこの記事から見えてくる話。

同じ朝日の新聞記事で、消費税のセットで議論されてきた社会保障の改革はどう変わるか、改革の一分野は年金が中心であると書いてあります。年金の抜本改革は難しいので棚上げ。その次の改革で年金の支給額をカットというのが始まりだしました。理由は10年前の物価下落時に特別に据え置きをしていたのだからカットしてもおかしくはないだろうと

いうこと。

こういうものが、税金に限らず税金に類するものがドンドン国民の懐を薄めというアドバルーンを上げている。アドバルーンを上げているから色々なところから「しょうがない」と言う声があがる。日本の国民は諦めるのが早いから、たくさん出されていると諦めていく。また諦めるように書いている。

新聞記事をじっくりお読みになって「点」になるもの、自分の五感で考えてピリときたものには調べる。そうしますと根っこが深く広くしっかりしたものになる。ある日突然それが小さい悟りから大きな悟りに繋がると思います。

本日は、これで終了とします。有難うございました。